

2  
11

宇野秋泉編

俗語と雜辭

全

附錄 假字遣 誤易字音 同訓異解



緒言

●世に俗語を輯めたる辭書少からず。雖も所謂百姓訓、誤謬の假字、推測の語辭を列れたるもの耳多く、現今の俗語を收めたるものに至りては絶えて之れあるなし。故に今の文を作らざる者、概れ皆これら舊套に學びて、あたらず白玉に微瑕を添へ、或は強ひて借屍の語辭を捏造し、以て識者の嗤を沽ふもの往々にして見ゆる所なり。今斯書輯むる所の語辭や、博く古今の諸書を渉獵し、且つ現時諸大家の佳作に就いて精校したるもの、即ち一辭一語の杜撰なき、固より編者の責を負ふ所なり。

●語辭配列の順序は、全篇いろは順に従ひて部門を分ち、各部門、清濁を論じず、最少の音を冒頭に置き、漸次多音に迨ぼしたり。

●本篇に於けるぬ、も、ぶの音は、便宜上悉く之を類音の初位、即



ちい、を、え音の部に編入したりと雖も、假字は力めて之れが區別を正うし、繙者をして混同の過なからしむ。されど、う、たう、へう、ひやう等の如きは、一々その假字に従つて部門を分ちたり。希くば、へうを誤つてひやうに寫め、見當らずとなして失望するなからんことを。

●同一字と雖も、多義のものは、各其意義に従つて部門を分ちたれば、往々重出の嫌なきを免かれず。繙者諒せよ。例へば、

突如いきなり(い)の部) 突如だしぬけ(た)の部) 突如やにば(や)の部の如し。

●元々外國語と雖も、今日我邦の世俗に普通なるもの、若くば其意義を借用したる一種の製作語等は、一二之を採録したり。例へば、

隣寸マツチ 高利貸アリス

等の如し。而してこれらに施したる假字は、皆カタカナを用う。

●我邦、古來又の名を、言魂の幸ふくにとも稱ふ。乃ちあらゆる俗語難辭を小冊子中に網羅せんことは、固より能ふ所にあらず。繙者、それ一を識つて十に活用せよ。

明治三十二年桂月

編者題



俗語と難辭

宇野秋皐編

ㄥ(る)

●いん二

情人(裏人)

去ぬ

探偵(間諜。細作)

熬(炒)る

ㄥ(る) 二

1

尙(一度)

甚(頗) (一)ぞんざい

卒(去來)

瀟洒(瀟灑。粹)



●い(ぬ)ノ三

春心(春情)

秋波

威張(跋扈)る

仔細(理由。云々)

弄る

一圖(一途)

什麼(恁麼)に

争(怎)で

淹れる(茶を)

義齒

假髮

假瞳(義眼)

不知(不識)

日外(曩日)

寧ろ(不如)

例

每度

活地(意氣地)

猪頸

異に——氣を廻す

不憚(不快)な——顔つき  
心もち

嫌悪(冷情)

抵辭(諷刺。怨言)

早晚(須臾)に

埋ける

●い(ぬ)ノ四

情夫(褻人)

百方(種々)

い(ぬ) 四

活(挿)ける(花を)

飲(ける)——口

燻る

鳴脚(银杏)

市虎(俠客氣)

熟蒸

歪(苦縁)

家格

雲布(兼絲)



5(る) 四

容足いんとそく 茶碗盃などの

最濃さいのう 煮

心肝しんかん (最愛) しい

意地張いぢは (拵任) する

乖性いぢやう (姦曲)

嘖いん (虐。折磨。囉唆) する

雄逞いけつ しい

瞋いか らす 目を

時いか らす 肩を

贗物いかもの (暖物)

最愛氣さいさいき (冲幼)

勞いた (劬) はる

惡戯いたげ (惡作劇)

驚おどろ かし

嬉々いそ しく

倉卒くらそつ (匆擻)

一廉いつけん (一稜)

恁いん な

曩日いづぞや (日外)

頑固くわんこ (執拗)

熅いせ (蒸) れる

突如いっぴ (唐突。不意。卒然)

敦圉とんい (發憤) く

事情じやうじやう (經緯)

氣息きそく (氣調)

息促いきせ く

縮小しゆくせう する

辯疏べんしゆ (辯解)

口實くちじつ

吩咐いひつけ (命令)

5(め) 四

駢參へんさん (逸散。蕪忽)

苛々いご しく

焦しやう (煞。燥) つ

多少たうしやう

灼然しやくぜん (顯著)

從來しゆらい (既往)

不可いふか (不良)

悒いへ (鬱悒) き

既望きやうぼう (十六夜)

紛紜ふんゆん (葛藤)



5(ぬ)四五

言種  
坐作

●い(ぬ)ノ五

纈帶  
逸早く  
慘(可憫)し  
狎戯く  
巫子寄(馮鬼術)  
貪食(充慾)  
起肩(峙肩)

因業(強慾)  
菜豆

居長高  
慌忙(多忙。繁微)し  
亭卒  
永遠も  
合紙  
懸命(賭命。決死。味犯)  
活洗

5(る)六七

坐行寄る  
食客(寄食兒)  
貪眠い  
氣息(氣調)  
推誘ける  
●いノ六  
一部始終(一伍一仕)  
慘憺い  
無消息(無信)

聘定(許婚。挿釵)  
論破る  
流言す  
佔てる  
居竦まる  
●いノ七  
毎々(毎度)  
好入來!  
言瞞める



い 七ろ 二三

毬栗頭

苦勞しい

ろ

●ろノ二

無價(無錢)

露路

●ろノ三

蠟色

臚柑

侏儒

言論へる

录(平。直。安)―にすわる

呂律

碌に―口もきつぬ

碌々

●ろノ五

飛頭蠻

魯鈍(愚物)

は

●はノ二

傍(側)

跋(何だか―が悪い)

潑水(泥穢)

彈機

ろ 五は 二

發端(最初)

纏頭

清濁(難)

既や



は 二 三

這は(跛。匍匐。爬行)ふ

榮は出え來い一

華は美で

場は合め(境遇)

● はノ三

賣ば女いた

零ば本ほん

孔ば(酷。非常。藉甚)に

約ば何かり個い一

切は齒がみ

鯨は魚い 斜は沙は魚せ

魅ます

督は促た(虐。督責)る

破は烈れる

呀はと

漠は然つ(漫然。曠然)と一話

燦は然つと一明るくふる

睨はと目を開く

濶は然つ(寬)と廣くある

視は襠ち

盡は頭れ(尖端)

不は作れ殺れ類れ野れ菜れならどの

奮は發つむ金を錢をならどの

喘は逼つ過つむ呼を吸をが

乘は機を發を卻を含をむ調を子をが

は 三

機は勢を(餘力。反跳。奇機)

發は矢を!

法は被を

外は(脱却)す

退は(遠慮)す其座を

勿はる除き一

跳はる飛び一

爆はる散り一

拒は絶をる

告は終をる寄を席を芝を居をならどの



は三四

私はに(竊取)る上まへな

暴露ばくろす

袁彦道えんくち(博奕)

難はやす

流行はやり(時様。風尚。時款)

陷はま(湮落)る水中あごに

耽はま(惑溺)る色慾なごに

消售はける商品が

●はノ四

淨房はじかり(後架)

回箱はこや(妓夫)

際限はこし

陷擠はめる

嵌はめる

騙はめる詐り

初物はしり

些少はした(小數。零餘)

半端はんぱ

忸怩はにか(含羞)む

は四

剥々はち——はれる

睨々にら——目ばたきする

奮發はりこむ

涉はまる

儂はかない——世の中

脆弱はかない——いのち

經營はからひ

伎倆たから(手腕)

披開はたける

碾はたく雷かみが

睖然はつちり——目たあける

問屋はつたや

發揮はつかり(明瞭。判然)

縹色はないろ

足談はなせ(足語)る

鼻梁はなすね

潛々はら(泣然)——こぼす

悚々はら——こぼれる

腹匐はら(匍匐)

魚卵はら



は 四 五

零亂錢 はら せん

敗衄 はう ぐ — の体でにげる

逸 はぐ (相失)れる

快口 はやくち (快嘴)

躁 はやる (早計。失急)る

捷徑 はやみち

聰耳 はやくみみ

齒應 はこたへ

髮際 はえぎは

● はノ五

迅速 はやく (快裕)

逼出 はみだ す

端折 はしよ る

燥 はしや く

罨發 はじけ る

山茗 はんちや

手帕 はんけち

絆纏 はんてん

斑猫 はんめう

尊大 はなつた (跋)い — — 口をきくさ

蠅帳 はうちやう (花漆)

鳩の目 はとめ かひ 順禮。山伏。女巫ふじ。迷信者の懐中を覗ふ者

拳飛 はりて ばす

撲殺 はひころ す

侮蔑 はにか する

出意表 はなれわざ

● はノ六

多謝 はやくからい !

抄々 はかく しく

は 五 六

養花天 はなぐもり

脱空 はなあか す

異腹 はらかばり

翻弄 はぐるか す

秃顛 はげあたま

乱り落 はふ つ

仿 はした ない

般若湯 はんにやたう



は七に二三

●ばノ七

愚直はかしやうぢき(狂直)

に

●にノ二

罅ひち(玷。瑕瑾)

●にノ三

香かほふよく——

臭かほふわるく——

脂あぶら乃の

履物はきものに(拒絶)する

嫣然げんぜん(莞爾)

難たがひい言ひ——

纖弱せんじやく(輕佻)

入染いりぞめ(浸染)む

奔竄ほんせんす

含笑ごうしょうく

収賄家しゅうぶりや

守錢奴しゅせんぬ(吝嗇家)

兀突ぶつとつ

に三四五六

●にノ六

粘着ねんしやくく

●にノ五

踟躕ちうちゆう(猶豫)

覆轍ふくさ

膠にかない——挨拶

●にノ四

諷ふうはす心を——

蹂躪じゆじゆる

面炮めんぱう



暴富はげか おひん  
粘着ねりやく

に 六は 二、三

は

●ほノ二

風致ほび  
拘摸ばた  
大言ほち (壯語)

●ほノ三

点ほちり (泣然) —— 涙をこぼす

兀々にぎぎ (如龜々々)

燈筒ほや (燈罩)  
盡ほす 汲み ——  
壺酒ほん 何 ——

貪婪ほら家

抛ほか (放棄。不顧)す  
淡澹ほか (暈抹)す  
嗒然ぼか  
扣鈕ほたん (鎖袂)  
唅ほち (喟然)と —— ためいきする  
糢糊ぼつ (濛朧)と —— して見えぬ  
悽ぼつと 心が —— する  
恍乎ほつ (恍乎)と のぼせて —— する

●ほノ四

點々ほち

ほ 三四

糺繆ほつ (放脱)  
黒子ほく (黒痣)  
私得ほさ (外待。私貯)  
老耄ほけ (老衰。老憊)る  
熱氣ほて  
熱ほてる  
吼ほ (哮)く

幾ほと —— 困つた



は 四

噤は(噤)る

餘熱ほ

大小ほ(長短。廣狹)

文身ほ(膚割)

絆は(羈)さる

省然は

徐徐ほ——出かける

點々ば——穴をぬける

豐腴ほ(肥膩)又ほつてり

山出は

子然ぼ

盡力は

骨格ほ

大言家は(漫言家)

厚朴は

髻々ほ(蓬々)

朗々は(會明)

不過本ホ

哭顔ほ

筋々は——折れる

は 四 五 六 七

露店ほ

寥寥ぼ——音

微りほ

●ほノ五

虚談ほ

暗示ほ(微見)かす

●ほノ六

滴々は

●ほノ七

彷徨ほ

陰々ほ(漠然。漫然。曖昧。糢糊)

懵然ぼ(惘然)——我を忘れて

愚鈍ほ(魯鈍。遲鈍)

北叟笑む

放散飛す



へ 二 三

● へノ二

臙脂へんじ

反嘔へんおう

遍縷へんる

拙た庸(庸)

● へノ三

爛醉らんざい (劇醉)る

窪く (凹黙)む

蒂へた 茄子。南瓜などの

總へた (都。一圓。一面)

剝へ (擗。培)ぐ

不可べ

鉛泥へん

へ 四 五

● へノ四

沈湎しんめん

周章狼狽しゅうしょうろうたい

平身へいしん (低頭)る

狎戲へたく

歔歔へそく

篋棒へらぼう

剽戲へうる

黏着ねんちやくく

● へノ五

裱裝へいそう

剽輕へう

攻擊こうげき (論破)す

拗折へしる

壓合へしあふ

浼焉へん — 遊びくらす

偏屈へんくつ

阿諛あゆん



喋々べちやく

へ六

と

●マノ二

大尾おおい(終局)

鈍遲どんち(鈍痴)

迎むか(聘)るよめむこな

放蕩はうち

退くひ

棲すま(栖)

私房銀へそくりがね

苫とま(蓬)

荊とげ(刺)

棄水すてみづ(瀆)

伽あま(侍座)

等ら(曹。儕)私わが

丁てい—とたある

太息たいき

鈍どんい火氣が

薯蕷汁しゆじゆ

盪たうり

燃もる

華表けひ

長所ちやうじよ

雀盲せきめう

動どう(左右。兎角)

●マノ三

響動きやうどう

剎那しやとな(奇機)

亞鉛あえん

撞つと—床につく

哄然こうぜん(嘯乎)と—笑ふ

紛ま(擾。蕙然)と—押寄せる

沛然はいぜん(油然)と—雨ふる

撞乎つうこ—と座る

獨鈞どくこん

と三



と 三

怒鳴る

誰方(何誰。誰君)

肚胸

何卒(覬希。惘望。囑望)

馨膠

動悸

何須(奚關)

礦粉

華主(主顧。華客)

木賊

毒味(試嘗)

緼袍(厚袍)

迎(擋)も

唯在る

底止(際限)

吃(蹇。訥。啞默)る

點す

案外(不圖)だ

甚麼(恁麼。什麼)

緞子

と 四

と 四

綠林(綠林兒)

昏昏(虚々)——れむる

蕩(搖)る

曹乎

左に右(兎に角)

躑躅

偽爲(伴爲)る

拔附(阿附。歸向)る 目上の者に

寒粟子

體度(動作。舉止)

物議(物論。風評)

攀く——鳥がな

欸待

幹旋(媒介。推薦。紹介)

誰何る 人を

哄く

急遽(倉皇)

篤(熟)り



と 四

澤山（豊富。富饒）

惕息（きりぎりす）

終々（結局）

胴慾（どうよく）

胴揚（どうあげ）

經濟（けいぎ）

毒言（どくご）

擾々（ざうざう）（擁擠。雜選）又どかどか

左や右（ひだりやみぎ）

戸迷（とまひ）

濁膠（だくがう）

牀瘡（しやうそう）

淡紅色（たんせきいろ）（朱鷺色）

恟々（せうせう）（恟々。悍々）

周章（しゅうしやう）

衝跳（しやうてう）（悸）く胸が

時榮（ときさか）

滔々（たうたう）（やつゝける）

小官人（せうくわんにん）（小役人を戯にしかいふ）

妙齡（せうりやう）

滔々（たうたう）（流れる）

闐々（てんてん）（太鼓うつ音）

偶忘（ぐわうしやう）（遺忘）

胴魔聲（どうまこゑ）

心太（しんた）

徹頭徹尾（てつとうてつび）

溺死人（せきしにん）

左眄右顧（さめみみぎかみ）

淪胥（りんこ）

と 四五

限度（げんどう）（終結）

剝喙（はくゑい）（丁々）（一月を叩く）

● ことノ五

嬉戯（きぎ）

切思（せつし）（思迫）る

體度（たいど）（舉止）

崇殺（すうころ）す

配合（くわいばい）

取緊（とつちぢめ）（壟斷。占領）る

左思右慮（さしひだりしり）



と 五六ち二

暗黒あんくわくい

丁々拍子てんてんびやくし

闐然嘈然たんぜんそうぜん

●ちノ六

左ひだりか右みぎか

稜々りやうりやうしい

最後さいご(結局。徹底)

頓狂どんきやう(頓興)

斑々はんぱん(點々)

筋斗じんと(斤斗)

ち

●ちノ二

掏摸たうも

些ちと(聊)

直ちか(直接)

話中わちゆう(語間)

秃ちび(耗)

●ちノ三

泰然たいぜんと——して動かぬ

昵ちひ(凝)と——見つめる

身柱毛みぢりけ

本色ほんしき(特質。特性)

點ちひ

響應ちやういん

ち 二二三

少婢ちひ

鏗然けいぜん——からり

狎ちやん

矮鷄ちやん

阿爺あや

粽ちまき

私窩子しわこ

扯斷ちぎる

正道ちやうみち(正當)



ち 三 四  
端然と

●ちノ四

艶書  
不日  
苟且——した事  
瞥と(一瞥)  
少時(暫時。霎時。一寸。鳥渡)  
胴衣  
地動波動  
地鞞(頓足)又ぢたゝち

昵近  
現晦——見える  
霏々 雪が  
歴亂 落花が  
狼藉る  
註文  
苛々——痛む  
逐電

嘲弄(冷弄)す  
恰好(恰似)  
適(會)——その時  
灯花  
丁(整然)と  
血塗(血淋漓)又ちみどろ  
●ちノ五  
絨毛  
不潔い  
婦戯

ち 四 五

微々  
宿痾(痾疾)  
心火(嫉妬。妬悍)  
沈香  
約り  
秩然(整然)  
樗文絹  
但見(瞥見)  
叢爾又ちよんぼり



ち 五六り 三

小賢ちやうけん

猪牙船ちよきね

咄嗟ちよんのみ (刹那。頓沛)

亂髮ちやうがみ

撥弄ちやへする

●ちノ六

往々ちやうく (時々。刻々)

り

●りノ三

茶厨ちやだんす

抵悟ちやんぼん (齟齬)

金錢ちやんごう

傭工ちんしごう

糝ちやう々く (流れる)

綸子りんす (花綾)

立派りっぱ (美麗。拔群)

示威りきみ

●りノ四

凜々りんしい

ぬ

●ぬノ二

髹漆しゆしつの

塗土とどの

●ぬノ三

り 三四ぬ 二三

饅膾めうた (饅茹)

紵ちよめ (光綾)



ぬ 三 四 五

滑ぬか(倅呆)る 泥ぬ水みづかごの中へ

曠ぬかる 時機ときを失ふ

吐ぬかす

●ぬノ四

土藏ぬり(塗籠)

泥潭ぬか

鈍呆ぬけ

●ぬノ五

推嫁ぬりる 他人たにんに罪とがな

綿密ぬか(用意周到)

突如ぬと

悠然ぬと

白刃ぬ(露刃)

逃酤ぬけ(密釀酒)

鷺步ぬき(潜蹤)

文綉ぬい(刺繡)

温鳥ぬくめどり(煖鳥)

る

●るノ二

不在る今いま一いつだ

●るノ三

坩堝る

●るノ四

外出後る

を(お)

る 二 三 四 を

留守る一いつを頼む



を(お) 二 三

●を(お)ノ二

機會(好機)

澱物(濁滓)

俺(乃公)

異(妙)

●を(お)ノ三

未矣(金は——いのちも)

下(降)す(上より)

墮(脱)す(胎兒を)

研す(わさびなど)

隔く(問を)

蠶

敢爲(——が強い)

卸す(商品を)

未生(恍惚子。未通女。黄花女兒)

記憶

經驗

蓬(毫)

媒鳥(囀。遊鳥)

成丁(壯丁)

俠氣(——を立てる)

陪從

機檻(陷阱)

怯氣(畏悸)

零落(落魄)

豆渣(雪花菜)

十八番(定文句)

を(お) 三

傍觀

女將(主婦。内儀)

御寢る

所天(良人)

噫氣(噯氣)

襪(又おくみ)

間食

溲器(虎子。馬桶)

凸額

濕布(襁褓)



を(お)三四

粥湯かゆ

●を(お)四

俺們おれら

惶々おどろ

寬濶おほ(寬裕)又おほまか

尊大たは(傲慢。倨傲)

大熱心おほ

面從た(諂媚。阿諛)

鱗なまこ

戰々おそ(悚然)

怨念おん生靈ひの

恐喝おそ(威嚇)す

從容おち(晏如)

沈靜おち(泰然)く

乙地おち甲地こち

風琴オム

瞻戀おほ

提筒おほ

穩當おち(妥當)

臆面おそ

加旃おまに

散財おちる

阿轉婆おてん(鹵莽)

頗々おほ

終極おち(結末)

呱呱おと(嗶々)

阿容おめ々々

風采おし(風丰)

艷妝家おし(嬌飾者)

を(お)四

醜婦おた(醜産。三平二満)

挑唆おた(慫恿。煽動)る

會葬あは(葬式)

教はるおし

危懼おそ

企及おつ(出右)く

須臾あや(斯須。早晚)

億劫おつ

出奔者おつ(脱走者)

顛おの(戰慄)く



を(お) 四五

拾歩(徒行)

儼(恢)える

存念(所存。所見)

倂おもかけ

を(お)ノ五

寬量(大度)

公然

健啖(狼餐狼餐)

磊落(不羈)

温順(恂厚)しい

相貌(容貌)

放逐(蔡)す

穩便おんびん

密室祈禱

探偵(細作)

考腰

御爲おため介ごかい

甍たまはれる夢などに

面瘁おもてつれ

所思(思區)

恣意(存分。思儘)

戀着こひひつく

好意匠(名案。創意)

忖度おもひやり

意献おもひぎし

絶念(絶望。断念。割愛)

を(お) 五・六

大言壯語(廣言)

を(お)ノ六

默許(默諾)る



を(お) 六七 わ 二

女丈夫おんなぢやう

拗折たつへしよ

掩被おつかぶせる

愚戯おろこがましい

●おノ七

不た畏め不す臆をく

わ

●わノ二

光棍わくわく(棍徒)

三足鳥おてんご

陪食おしやうはん(陪餐)

嘲哢おしやうらんかす

過慮おもひすぎ

毘わな(係蹄)

俺わし(乃公)

故わざと(故意。假意)

戦々わな(悸々。兢々)又わくく

無難わづ(容易)い

頑悪わん

事情わ(情實。理由)

●わノ三

割賦わ(分賦)

號わ(哮喘)く

●わノ四

親密わ(無別)き——交情

無理わき——願ひ

壯校わ(壯丁)

睚恚わ(拗強。拗振)

●わノ五

わ 二 三 四 五



わ 五か二

没理漢(没分曉的)

か

●かノ二

主角(言葉に―が立つ)

嬢(媽)

全然(真個)―がいない

格

拭(拂。去)ひはなを

恚(斯)

豎子

●かノ三

皆無

庇掩(愛護)ふ

岸破と

齧る(鼠)

耗る(なやぢの煙を)

懸る

仗る(親子に)

着手(る)仕事に

か 二 三

早(く)興ふ(ごな)

搔(抓)く爪にて

未了(餘。未喫)食ひ―

次(出)歸り―

支(ふ)倒れぬ様に物を―

水手(管工)

孩兒(嬰兒)

挂(る)糸で

媽々

騙(る)

固唾(乾唾)

堅氣―の商賣

氣質(商人)―

噎(る)聲が

擔(ぐ)



か三

迷信かみんぐ

羯鼓かつか

夙かね(豫)て

愜かな(協)ふ

廓然からり——こした眺望

鏘然からり(戛然)——こ音がする

翻然がらり(脱然)——こ變る

縈からむ

虚然がらん——こ明いて居る

衣兜かくし

構造家かまへの

姿勢かまへ身の

吠かみす(裏子)

貳價かひね

首掉かぶり

旁がら

搗かて(雜)て

輕匆がさつ(輕卒。卒爾)

翳かきす

痒かゆ(癢)い

髻かもし(假髮)

眊かす(眯)む

傭かわる

纖弱かよわい

偏僻かたいち

憂々かた下駄の音

兢々がた——ふるふる

肩褶かたあひ

我他彼此がたひし

か三四

紙袍かみこ

瘖かび(微)る

●かノ四

海賊かいぞく(白浪)

皆暮かいくれ(全然)

搔卷かきまき

皆目かいうく

容貌かまぢら

稜立かさだつ目めが

磕々かち



か 四

左右かれこれ(東西)

落膽がつかり失望して

困憊がつかり疲れて

渴々がつか(貪食。充慾)

低廉かつこ

敵かたはぬ到底――

呵々かゝ(嘖然)――大笑する

辛々から命――

嚅々がら――音がする

嗟かゝ(揶揄。調戯。誕)ふ

關捩からくり(機捩)

破器損具がら

蹇ゆる

云々から(斯々)

強勢がうせい(剛勢)

管かき(關)はぬ

魚圓かほ(蒲鉾)

陽焰かひ(野馬。遊絲)

賒賣かひ

欠落かひ(脱走)

我張がんる

招牌かん(看牌)

提灯かん

號衣かん

楫師かん

遮眼燈がん

勘着かん(暗會)く

手燭かん

岩疊がんつくり

か 四五

●かノ五

業肚がふ

感化かみ(同化)れる人の心に

疵かぶれる漆に

闇かみせるふたを

虚託かこ

襲かこねる衣類を

嘖々がみ――小言をいふ

齊負かしく

凍冷かじる



か 五

撈ぐる

誘拐(拐帯)す

輕逸(輕佻)

連累(連及)

搔抓(抓撈)ふ

欺罔れる

虚喝(虚勢。虚威)

全然(真個)——だめだ

白地藏

陰蔽

窮奇

對座

攪亂はす

攪和せる

嚼紙

跪まる 下座に——

謹諾まる 仰の趣——

誤認(誤信)る

神宿びる

枕探

かノ六

自用车

高慢的(不遜的)

業を沸す

かノ七

詭交り 小兒の

よ

よノ二

繕る糸。紙などを

か 六七よ二

魯魚誤  
神信心(神敬虔)

搔繰棄(擦棄)る

可矣!



よ 二三四

舍諸よし——にする

●よノ三

感快おがる

竦立おだつ身の毛も——

夜延よなべ(夜業)

深更よふけ(深夜)

流盼よこめ

●よノ四

凌登よち(踰踰。蹠蹠)

蹠蹠よちめ(踰踰。蹠蹠)く

勁彎よつひく

終宵よひて(夜一夜)

●よノ五

爛醉よつぱら漢ひ(酒酒家)

譫語よさひごと(囈語)

た

●たノ二

簾たが

簾たが(簾束)

よ 四五た二

止と(舍)す

寄來よこ(遣)す

判よ(解。氷解)めた疑團

葦簾よしざ

豈夫よもや(豈敢)

便宜よすが

疲曳よほ又よたく

尪弱よわ

設令よしなほ(藉使)

四方八方よもやま(四表八表)

横面よこづら(側頰)

甦活よみが(蘇生)へる

尋常よこ(凡)

無價よぐ(無錢)



た 二 三

諛々た——をこねる

過た(經)つ月日が

稀たま——に來る

有用た(利益)

●たノ三

速夜さいや

攝養だいいじ(自愛。加餐)

把稿たはし

俗諺たどへ

炭團たん

不要た(無益)

虛託た人を——につかふ

煎汁た——がうまい

山車た(山鉾。樂車)

怠たい又だるい

簇た(聚)る

消息た(音信)

倚賴た(賴托)

崇たる

未滿た

控たど

道戯た(滑稽)

騙た(欺)す

藥たる

揉たる

矯たる

貯蓄た(蓄積)る

多度た(饒多)

た 三 四

●たノ四

戮たむ石をどにて

整た(處理)む世帯を

殺たむ

疊紙た

三和土た

切た(佃)つて

墮落た

充満た

汚た(塗)泥を



た 四

體無(滅裂)

退屈(倦厭。無聊)

梵妻

莫大た

囁語(謔語)

僵(倒。仆)れる

側聽(偷聽。竊聞)

斷物(禁物)

權高(尊大)る

驕兒

千(佇立)む

質(訊)ねる

湛然(充分)

屋賃(房錢)

漫々(遲緩)

滴瀝(浙瀝。流れる)

倦乏(舒遲)る

滿腹

南瓜

放蕩

た 四

唐棧

陶宮

點々

時稀

俠客

代辨(負擔)く

竹姫(竹夫人)

摟住く

長吁(長太息。啞啼)

溜髹

踟躕(躊躇。逡巡。遲)ふ

退縮(僻易)く

唐突(突如。突然。不意)

釀出

慎(節。用意)む

謹慎(用意。節度。素養)

補充(填補)

漸次(次第。寢)

丹念

湛納



た四五六  
無言だんまり

●たノ五

幫漢たいもろ

佇立たぎりまる

正体たわいない

布置たしずまひ

品評たなごらし

亂次だらしな(乱脈。癩懦)い

●たノ六

甜言たらしめんく(誑文句)

丹精たんせい(丹誠)

陶然たのしき——に酔ふ

恃たの(頼托。倚頼)こい

禁たご(耐。堪)らなう

煽動たきつける

爨妾たきごわり

瞞着だまくらかす

波動なみだら染ぞめ

●たノ八

摺皮包たけのかはづし

れ

●れノ三

歴々れつき——とした身分

櫺子れんじ(籠窓)

●れノ四

了簡れうけん(料簡。量簡)

た 六八れ 三四

漁郎れうし(白水郎。海士)



そ 二三

そ

●そノ二

反る

●そノ三

披々びささ——着流すした身裝

加旃かせんに

翫せん(逸。外)る又そらす

漫まん(坐。不覺。無端)

私し(竊)と

殺ぐ

悚然そつぜん(凜然。冽然)と

偽寢ごいね(貉睡)

舉動きゆうどう(體度)

四邊しへん(近邊。座側。周圍)前後。四下。左右

約やくとなの年頃

那麼んな(那樣)

因いん(乃)で  
内瘴ないしょう

●そノ四

徐々じょじょ(漸次)

曳從えいじゆう(曳地)——ひきする

陸續れいじゆう(絡繹。接踵)——出て来る

雀斑せきあま

嬉々きき氣き——する

傍杖ぼうじゆう(相伴)

習々じゆじゆ(蕭颯)

そ 三四

妖婦ようふ

倉皇そうわう

散亂さんらんける

外方げいほう(側面)

全然ぜんぜん(宛然)

素首そうくび

薄媚はくびい



そ 四五六七

屬魂ぞうこん

蠶豆そらまめ

偽聽そらみき(妄聽)

踴躍ぞうとく—喜ぶ

●そノ五

教唆せうさ(噫)す

喔咿おうえい

●そノ六

肅々ぞうぞう

●そノ七

倉皇そうこう

褻せつ

粗忽ぞんざい(輕佻)

袖そでにする 見棄る事

賄賂まわし(世且)又そでのした

存處近邊ぞんじよそこら

し

●つノ二

剩錢せうせん

挂つ(支)く頬杖を手な

吐つくうそなへごな

注つぐ

●つノ三

衝つと—座を起つ

そ 七〇 二二三

爲つく(強○競)腕腕—金銀

交まじ(調味)食物の

補綴つぎ

節次ついで



つ三

圖星(目標)

窄袴

狡猾(狡獪)

痞(疹)

遙(杳。優)

葛籠

捻(捫る)

難堪

一齊(一列)——まならぶ

氷柱

旋毛——が曲つて居る

搖籃

噤(拮)む

渾成(尽め)金銀——

終極(畢竟。究竟)

迫(窮。谷。塞)る

跟(踪。尾)ける

爛(暖)ける酒を

嘗ど——見たことない

約(意。心算。豫想。存念)

つ三四

忖(忖度)る  
昂然(怫然)と——すれる

●つ四

掩障

蠹々——ま立つ

堆朱

條理

緩漫(等閑)

緩慢(怠慢)る

從々——ま進む

甚(極)と

直截

無情

内眷(配耦)

諷詆(譏刺)

體軀

蹲ふ

俗僧

倩々(熟々)



つ四五

捏る

兀然(徒然)

鮮潤

躓(跌)く

掐(爪)繰る

足尖

儉約い

乗む

劇醉(爛醉)

●つノ五

膽大い

渾濡(全濡)

眩(獨語)く

刺痛

迫寄る

不知不識

侃々——言つてのける

直々——行く

豊腴

羊腸(九折)山路の

可愼(可羞。翼翼)しい

美人局 女の詐偽師

相貌

●つノ六

突慳貪

ね

●ねノ二

螺釘(螺旋)

つ五六ね二

追従

綵花

満(要。無趣。索然)ない

増長(僭侵。僭越)狙る

厚顔(破廉耻)しい

遡(徐行。緩歩)る 行列などが



ね 三四

●ねノ三

寢惚ねぼけ

寢刃ねたば

寢強ねだ(煩請)る

齋いっせ(鄙吝)い

根柢ねぢ木の

覘ねらふすまな

●ねノ四

靱々ねち(覘)る

佞ねちける

狙ねらふまきな

埒ねぐら(栖)

寢衣ねまき

評價ねやみ(估量)

摧直ねぢ(折價)る

音調ねじめ

反側ねがへり(轉側)

晏臥ねそべる

ね 四五六

絶對ねつから(全然)

饒ねぐさい

偃臥ねころぶ

●ねノ五

捩伏ねぢふせる

捏造ねじさど説(蜚語)

寐驚ねたが(寐悛)える

寐亂ねくたれる

●ねノ六

絮語ねこたひご(甜語)

藏匿ねとばし(韜秘)

根刮ねこそひ(悉皆)

禱ねんね

韜ねこか(粧)粧ねこか處女ねこかぶる

鼠鳴ねきみなき(唧喋)

念晴ねんはらし(洩憤)

板厨ねずみぐら



な 二 三

な

● なノ二

風体な(風俗)

飲なる一口

交情な

● なノ三

癒な(快。治)る病氣が

矯なる根性が

中心な

和なぐ風。海ふどが

絢なふ繩を

喃な又なう

淨槽な(決水槽)

斜坡な道などの

崩頽な雪などの

な 三 四

● なノ四

拘泥なむ

均な(平)す

有名な(有數)

頑癬な(白斑風)

大官人な(總公)高等官吏を

承塵な(楯間)

別離な

秘密な

強な(幾金)一何圓

殘懷な(餘波)

萎な(痿)る

何有な(何爲)

幹なす

親なむ

相識な(知己。馴染)

藏鉤な(猜拳)

何彼な

形態な



な 四 五

癩病人(天刑病者)

果然

可成的(可及的)

牙商

慙(却。眞。煩)

月中人(月下氷人。氷翁)

納得

聚毛(腋)

慰藉(慰勞)

● なノ五

娛樂

虚誇(半粹)

鈍刀

慙

忽諸(等閑)

蛞蝓

砥(餌)る

盈々(一注ぐ)

な 五 六 七

生半熟

● なノ七

晝後

晝暇(歇)

● なノ六

長坐

懐しい

和解(調停。講和。釋恨)

無頼漢

生吠

半通(慙)

雍介す

柔革(韋)

濟崩

半面學(白面書生)



な 八ら 二四五

● なノ八

七廢八興なしくろひや たき

ら

● らノ二

埒らち

● らノ四

樂陶らくやき (樂窯)

亂的らんちき (紛雜)

● らノ五

蕘らを

卵塔らんたふ (亂塔)

竦らつきやう 薑じやう (薙)

む

● むノ二

無益むた (徒。贅。冗。蛇足)

偏びん (不正。不序)

● むノ三

野心むじん (非望)

先方せんかた (其氣なら)

愠むつ (憤然。脆然。勃如) と

ら 五む 二三

駙馬むこ

眞まき (一になつて怒る)

無手むて と

訥むくち 嚙くち (沈黙。寡言)

妄むやみ (叨。濫)



む三四

躁妄(暴虎。躁卒)——な人だ

汗瀆(汚穢。穢陋。汗醜)い

剝肉(あきりの)——

筆(毛。羽ふごを)

●むノ四

嘔逆(欲嘔)く

煩嘔

贅辯(冗言)

激憤る

木訥漢

荖(草。根なごを)

撈(かき)——

擗(ひき)——

噎(隘噎。咽鳴)ぶ又むせる

蠕々(蠢々)

勃々(蠢々)

畧(腴)り

麥斗

天真(露骨)

土藏破

む四五六

蠹蝕  
無性

●むノ五

疎妄(又むてつばう)

胛骨

閑談(白話)

感痒(覺痒)い

難し

●むノ六

錯雜(無次序)

險澁(い)——顔色

佶屈(い)——文字

危篤(い)病氣が

不滿意

忪悸(心動。驚悸)

忽怒(易怒)つ



む 六 う 二 三

汗瀆あせぐす(穢陋)

う

● う の 二

可感かかん(優し) — やつた

空虚くうこ(孔。窩)

獨活どくわつ

汝なんぢ(豎子)

非ひ そんな事をされて  
怒らぬのは—だ

● う の 三

蒹蒹かんかん(煩悶。懊惱。鬱勃)

渦うず

初心しんしん

諾だく!

有卦うけ — に入つた

技倆ぎりやう — だ

唸うな(噤。呻吟。噢咻)る又うめく

旨うまい食物

巧うまい 藝が—  
仕事が—

金青色こんせいしき(鬱金)

茄うて(堞)る

胡散こさん

亡なげ(失)る

諾だくと — 返事する

咥くはと — 言つて倒れる

饒うん(多)と — 盛り上げ

う 三

胡亂こらん — なやつ

遊治ゆうぢ

側目せはめ(上竄)

潤うる(露)む

迂濶ういか(不覺)と

照應しょうおう色の — がい、

恍うわう(現)

中棧敷ちゆうせき芝居の

疼うづ(楚痛。酸痛)く

曲折うね(起伏)る



う 四

● うノ四

狼狽ろうたひ

浮波うは(躁)つく

後妻うしな(繼妻)

嚙言うはご(謔語)

昏昏うとく(假々。虚々)

優曇華うぼんげ

自負うぬづ(自惚。自信)

懊惱うらさ(煩擾)い

漫然うか(虚々。徒々)すこす

恍然うつさ(恍惚。惺然)

偶然うつかり(漫然)――出来た

無心うっかり(虚心。不注意)――話す

勃々うつ

淡然うつ

起伏うね(高低。曲折。參差)

頷うなづ(垂頭。點頭。首肯)く

覽うなさる

正反對うらは

う 四五

麗々らら(遲々。融々)又うらら

反應うらぎ(内通。通款)

俛うつむ(俯伏)く

雪花菜うのはな(豆滓)豆腐のから

贖出うけだ(贖回)す

保證うけあふ

● うノ五

半覺うらたきえ(半解。纒識)

内訌うちわめ

良人うちひと(所天)

拱手うでこみ

忸怩うじ(踟躕。逡巡)

豪駝師うたぎや

愚鈍うすのろ

仄うす(側)――聞いて居る

雲紗うんさい

更衣うつりかへ

報酬うつけひ貨物の――又おうつり

虚氣者うつけもの(痴漢)







の三四

逆上のぼせ(上氣。上衝)

不絶のべつ(無間斷)

暖簾のれん(布幄)

突然のつげ(不意)

●の四

謠のろ(自惚)ける

喉のど

遅々のそく(飄々)

飄然のつそり

辭退のつひき(退引)

去の(退)ける

陪のめ(伏仆)る

疆顔のん的てい

暢氣のんき(長閑。融和。悠然。平然)

遊惰のらくら

仰反のひざる

仰様のひさま

伸々のよく(暢然)

踴々のどくあるく

伸張のさば(偃蹇)る

匍のびる

知悉のみこみ(理會。合点。會得)

●の五

野倒のたれ死じ

加旃のみな(乃至)

●の六

紆々のたひく

●の七

轉輾のたう反側ちまはる

の四五六七

伸暢のびく心が

遷延のびく時が

酒客のみすけ

爛醉のんだ漢くれ(腆忍家)

腆忍のんた(霏醉)れる

悠々のんべん閑々たたり



く 二三

く

●くノ二

舌頭その一で  
だまされる

部類どの一の方だ

庫裏寺の

刳る木を

●くノ三

直頓と又ぐつと

黒睛

共謀同盟はたらく

愚鈍

競かけにらめ

囁のれも出る

適はぬ氣に

皎焚熟る

く 三

諄元

迫懇口挑。口説。口寄く

門暗梢又くろく

裏む

共興

歪摩子にが来た

與れる人に物を

昏昧晦れる見るに目も

顛狂逆る

奮然と腹を立てる

哄眩る

餘波宴會などの

破頹す面相を

換す金銭を

耳門子門。窓

諛詞吊慰

粹る

苦艱

口調口吻

楔子



く三四

誹謗ひぼうす

抉くつる

くく四

鯨飲くじののみ(呷服)

熟鍊者じゆれんしや(伎巧人。粹人)

烏樟くわしやう(小楊子)

脚くわ(唾。噉)える

媿々くわい(喃喃。訥々)

禁口きんぐち(緘口)

詼謔くわいげつ(諧謔)

口舌くちせつ(苦情。紛義)

澱くすむだ色

口健くちまめ(饒舌。多辯)

口吻くちふん

舌頭くちまき——ばかり

巧言くわうぎ(辯口)

唇頭くちまき(口角)

糊口くちすき(生活)

腴々くちく——ふさつて居る

懇々くんく(惘々)——もたのむ

寛くわんく

萎靡くわいび

屈詫くつた

頹くわいれる泣き——

沸々くわい——と沸る

暗々くわん(媿々。諄々)——言ふな

躊躇くわん(逡巡。踟蹰。優柔不斷。因循姑息。首鼠兩端)

皖くわんり明白

熟くわん(困)り——睡る

く四

軒々けん——とした目

繰言くわん(周諄)

旋々くわん(旋轉。宛轉)

圓座くわん

花爛くわん三味線の——の胴

嚇くわんど

悒々くわん(鬱々。忡々。憂悶)

斃くわん(死亡)る

草臥くわん(疲勞)

齟齬くわん(牴牾。支吾)



く 四五

揺動ぐらつく

揺々ぐらぐら動うごく

眩々くらくら(暈旋)目めがが―又くらく

黝々くろくろ―いびきをかく

莎繩しゃなば

恨悔くやし(憤激)い

嚏くしやみ

●くノ五

反言くちごたへ

口號くちごたへ

鬱々くつき(怏々。悶々)氣きが―する

竊取くすね(私占)る

繕くすくる

吃々くつき(竊々)―笑わらふ

櫟くすく(擦。格指)る

燻くす(艶。賊)る

駸々しん―先まに行く

反復くわがへす

畫作くわさく(經營)

崩折くづれる

行くだ(能。滿)らない

粹客くわい(大通)

●くノ六

愚弱ぐにや々々

五墮ごた々々

瑣々さしい

瓦落かわ々々(磴礪)

●くノ七

五一いち三さん六ろく

く 五 六 七

食失くひはぐれ(食逸)

素飧くひつぎ(徒食)

解願くわん(酬愿 報賽)

括枕くわく(綯枕)

愚顛ぐでん々々

奇痒くさ(肉癢)たい



や 二 三

や

● やノ二

不粹やほ

所天やと(亭主)

遣や(與)る人に物を――

爲や(行)の仕らるさう――がい

學やる 何を――つもりだ

● やノ三

突如やは(不意。卒然。唐突)

妬やく

僥倖やま(投機)――を張る

自暴や、自棄け。孤憤こ

窯やき清水みづ――

鳩婆やりて

發憤やつき

委やうす 憂身うを

省やうす 書法しよを

俏扮やうす 身みなりを

粗質やう

癖やまひ(癖) 金かねさへあれば飲むのが

鰥男やもめ(曠夫)

寡婦やもめ(孀婦)

喝采やんや――を賞める

や 三 四

● やノ四

策士かりて

遣瀨やるせ(遣施)

徐やそち

旋やが(廳。乃。頓)て

妄やたら(叨。濫)

墨斗やたて

拳固やせう

纒やう(辛)と

憔悴やっれ



や 四五

亭主

雷同者(野治馬。彌次馬)

献酬(盃の。贈り物の。)

經營(融通)

猶且(依舊。依然。同然)

厄介(係累)

羸(窶)れる

●やノ五

聒(姦。喧)し

方纒と

孃娜(姿)

有情(心)

容易(仕事だ)

鬱勃(懐懐)

清癯(瘦軀)

頑要

輕々(徐々)

無能漢(不中用。刁惡)

家婦

瞽眼(角睐。敬目。邪睨)

病耗

●やノ六

成遂せる

紛々擾々

ひよ

●まノ二

如意(任意)

密夫(私夫。情夫)

や 五六ま 二

邊幅(ふる)

破れ被れ

權且(請且。先)!

正理(枉)もくめの



ま 二 三

肉刺ま 足の底に――が出來た

了鬚ま 遊廓などの少婢

●まノ三

倭僧ま (賣僧)

正面ま

絡ふま

宛然ま (全然)

擬似ま (摸倣)

不味ま (不美。不旨) 食物が

拙ま (劣。不巧) 術技が

壯健ま (健在)――や生きて居る

忠實ま――に勤める

焠兒ま (燐枝)

睫毛ま

利得ま (利益。利潤)

典ま (入質)る

眶ま (目蓋。臉)

豈夫ま (豈敢)

眞摯ま――な人だ

清醒ま――では言ひにくい

目成るま

●まノ四

前平戸ま (櫛戸)

間拍子ま

目蕩ま (假睡)む

失望ま

祈子ま

間懶ま (目倦)す

轉借ま

ま 三 四

老成ま

無障ま (容易)

轉貸ま

木天蓼ま

再度ま

股下ま (裡膀)

陪臣ま

尤物ま

眞額ま



ま 四

幾望まいつよ(十四夜)

眞個まこと——の語だ

晴眸はるま

耄碌まうろく

摸擬まもがし(擬物。偽物)又まんぼち

雌雄めしゆう(輸贏)

塗ま(沈。淪滑。燥汚)れる

眩くら(羞明)しい

倉皇くらわう(狼狽)く驚く形

彷徨さうぼうくぶらぐ歩く形

周章しゆうしやう(狼狽)

忽諸まご——しては居られない

顯然まじ(宛然)

連及れんじつ(累座)

謔語人まめご(饒舌家)

闕まじぐ

禁厭きんえん(呪禁。況術)

耿々けいけい(兀々。墨々)

目勝まな(慢勝)

眞更まんな(一半)

ま 四 五 六 七

兀然まんな(耿然)

●まの五

豐頰あはれ

辯疏べんしゆ(陳辯。分疏)

●まの六

天運あまのま

眞正中まこと

偶中あはれ

似眞的まこと

●まの七

狗盜いぬびき(扒手)

藁直わうしよく(藁地)

柴根しばね

眞面目まじめ爲る

謙浪けんろうす

滿偏まんぺんなく



不負魂まけじだましひ

ま 七 け 二 三

け

● けノ二

吝嗇けち あいつはーだ

卑劣けち そんなーぶ魂性

不祥けち (非難)ーをつける

負傷けが (痕)

● けノ三

嘘嗒けろりーとして居る

怪我けが (錯誤)ーにも言ふな  
の功名

淺量げん (亞客)

拇戰げん

驗げん (功驗) 服薬してもーがない

暗會ける

長裙けだし

毛布けつと (氈子)

暖氣けつぷ

健氣けなげ

難けな (貶。輕蔑)す

● けノ四

京鴉けいあ (會組)

毳立けいたつ

踢けこ (蹴踢)す

氣疎けらい

け 三 四

燐けむい

稀有けうな

怪訝けいげん

氣振けふり (氣勢)

毛竅けあな

焔缸けんぱう

焔炭けんたん (炭炭)

假病けびやう

繭緞けんとん



け 四 五 六 ふ 二

慳貪

袋戸棚

●けノ五

筒子

●けノ六

歴々し

消魂し

ふ

●ふノ二

謹責

立翁げんのう—で打つ

嗾けしかける

業々し

慳けんも發露はつろ

不調ふてう(不諧。破裂)——になる

偶然ぐぜん(不圖)

態たい(風)美しい

爲たふ知らぬ

經きやう何日

冷遇れいよ(薄待)る

●ふノ三

飄然ひょうぜん(突如)と又ふつと

斑點入

鐵葉てつえつ(白葉鉄。馬口鉄)

ふ 二 三

爲たふ(修。装)る 學者—

痴鈍ちどん(魯鈍)

髮垢はつご(雲脂)

被たふ着物の

歎冬たんとう(落)

曲調きよくてう(音調)

腑虚ふこ(痴鈍)

蒸たふすいもを

吃たふ(喫)すたばこを



ふ三四

飄然

眇らぬわき目も——

耽る物に

老る年が

闌更る夜が

粗野粗齒。木訥

狼慍。悻る

●ふノ四

橐籥輔

睽眇く

符牒子號。暗號

憂悵。喏く

拭巾

愍然憫然

襖袷

紙門

過賣

顛る

戰々慄然

輕浮柔軟

拂然斷乎

噉々小こまかいふ

拂底

欸乃

吃水

剪絨

倏忽突如。忽然——氣になる

搖曳あそく

ふ四

浮浪々々して居る

玻璃罈

鞦韆半仙戲

風鈴簷馬。簷鐸

風態の怪しいやつ

封袋包の——

風帶鶯燕。掛軸の——

膨脹る

惡諠狎褻。挑戲る

孳々



ふ 四五

類織るいぢ

不爲体ふしだら

無精むしやう (懶惰)

● ふノ五

風聽ふいちやう (吹聽) 披露

豐腴ふとりの

袖手そでて

振釋ふりはな く

廻顧まわかん (回首) る

再發またかへ (瘰) す 病が

芬々ぶんぶん ーか なる  
忿々ふんぶん ーおこる

振抛ふるま る

古董ふるもの (骨董)

陳腐ちんぷ い

腑効ふかひ ない

宿醉ふつかい

亂打ばうた く

太脛ふくらはぎ

吹賞ふきすほ む

蹈破ふみした く

沒好果ふしあはせ

眞率まことほろ (木疆)

ふ 五 六 八 九

層波臉ふたなみ (重華)  
佛頂面ぶつていめん

● ふノ八

不承々々ふしやう

● ふノ九

端的みづか (唐突) に

吊懸ぶらさ がる

垂下たらし げる

風た利ふうた 利きい 利きい た風かぜ をもちつて

● ふノ六



ふ 九 二 三 三  
繪死よらんこむらじま

こ

● 二 二 二

碁子こま 象棋の

柱こま 三味線の

雜還こ (肩摩。擁擠)む

● 二 二 三

這奴こ

靴こ (桃牙)

雜こ 何も彼もーにする

漉こ (漉)す

建水こ

零こ す 水を

歎こ (述懐)すぐらな

鐵架こ (鐵鴨脚)

扶こ る

小腋こ

紙縫こ

火燧こ (火閘)

林響こ (鈴銜。岳響)

雜こ (混淆)

玻璃蓋こ

絶命こ (物故)る

こ 三

零賣こ

壁骨こ

僵こ (倒)る

沽券こ — びさびる

叱言こ

鮫こ (腐敗)る 魚の しらす

惚こ (腐敗)る ほれる こ

狡猾こ

掌こ る

涼爐こ



這般(這麼)

こ 三四

●、ノ、四

栓木

遊民

輾々(隣々)車聲

段々(尨々)雷の

啾々(猫の喜ぶ聲 轉じて人の喜ぶにも用ふ)

轉々(一臥て居る又ころり)

硬(強直)る

競々

鬼臉

註(注意)るあらひじめ

斥(拒絕。謝絶)る 要求を

傳語(囑言。傳聲)こまばの

依托(囑托)品物の

俺們

作聲(擬聲。假聲)

混雜(紛雜)

過般(曩日)

咏(堪。禁)へる

勾配

尋常(かなりウー)だ

紛(囁)す

縷々(靦縷)

詔佞者

阿諛る

未亡人(後室)

饒多(豊饒)

徹るるほれ身に

今後(向後)

云々(東西)

左許(小大)

刮去(挽)る

密々

粉灰

悄地(私り)

躑躅(一出掛る)

濃厚

と 四



こ四五

歡心こきげん 且那のーをさる

恐悅こきげん 大ううーだれ

顛顛こめかみ (碎谷)

牽強こじつぱ (附會)

●こノ五

粘着こりつ く

幹開こみち ける

小軀こくみ

素飧そくじん (徒食)

調子てうし

打扮こしらへ (扮装) 身のー

兄章こじちやう (女姑。大姥。眷兄。小姥。眷弟)

數々こせく 然(間々)

蒼鬱そうよく

清楚こまつばり

上衝こみち ける

牽強こじつぱ ける

魂性こんじやう

迷信家まいしんか  
造次ぞうじ (頓沛)ーも忘れはせむ  
心寬こころのひろ

●こノ七

言語道斷ごんご 世に同斷を書くは非也

江(急)

●こノ二

鏤る (刻彫)る

こ 六七 え(七) 二

米浙こめかしやう 筑  
金輪際こんりんざい



え(ゑ) 三四五七

●え(ゑ)ノ三

衣行えから

偉(豪)シえら

●え(ゑ)ノ四

醜えがらいーいもだ

畫趣えびり

●えノ五

依怙えこひ鼻貧ひしやう(偏頗)

て

剋(抉)るえき  
榮曜えいようーに世をわたる

那個物えてもの

衣紋竹えもんたけ

木偶でく

●てノ二

●てノ三

出初でばな(初煎)番茶もー

簡便てがる(安直)

手絡てがら鬚ひげの

蕩然でしり

忸怩てれ(失興)る

手練てれん(詭術)

憑託てつ(資縁)

て 二三

手水てすい(淨水)

上圍てうい(上廁)

銚子てうし

曲調てうし

語調てうし

術數てくすう(局計)

點方てんぱう茶ちやの



て三四

徒手(空手)

輩(徒)

手巧(敏腕)

●て、四

緩(寛。鈍)

縁索

隨口(放語)

天邊(頂上)

必定(切當)

瑩々——光る

浮露

各自——の勝手だ

自初——話にもならぬ

蹶々——あるく

手薬煉

手信

磨く

偶奇

手套

凸凹

迅速(快速)

顛面

手慰(手愛)

自初——だめだ

●て、五

爲躰

補鞋工

指甲摩る

田縉(田舎紳士を指す悪口。田縉國音相通ず)

て四五

手傲(戲弄)

轉軫(三味線の)

黄縁(憑託)

初減

轉禮味噌

邂逅(撞見)す

打擲

乗機く



て 五六七あ二

花生子ていせいこ(無爺兒)

偶意ぐい(乍意)

●てノ六

傳法肌でんぽうはだ

●てノ七

掃晴娘せうせいぢやう

あ

●あノ二

異あや—なこころをいふ

挿嘴てしやば(容喙)る

轉手古舞てんでてこまわ

顛仆てんぷくへる

金舟あか中の溜り水

瑕瑾あたら

阿魔あま(匹婦)

目的あて(的中。豫算)——がはづれた

信用あて——よはならない

閑伽あか梵語にて水のこと

仇敵あた(敵讎)たを濁るは非也

徒あだ(冗。贅。無効。浮虚。)——な浮名

婀娜あな——な女

那あな

●あノ三

文色あいろ(黑白)又あやめ

高利貸あが

請了あはよ(然者)!

霽あがる雨あめ

あ 二三

推測あたり(判定)大凡の——がついたが

抵あた(諷)る人に言ひ——

中あたる毒あやに——

挑あたる塵あやくがどうか——つて見る



あ 三

測るあはるさるばんでーつて見る

取暖るあるた火鉢に――

渾名あなな(綽名)

可惜あたら(堪愛)

他人あたし心

那方あなた(彼處)

呀あと

呆氣あつげ

胡座あぐら(跣座。結脚)

案倦あぐぐ(飽倦)む

煦あくみ(吹)

戲弄あやす

鈍あまま(緩。寛)い

扇あふる

呷あふふ(鯨飲。仰飲)る

水泡あぶく(泡沫)

法外あとぎ(無法)

和あえる菜ごまな――

目途あてな(當所)

佔あてる言ひ――

め 三四

蛤蜊あはり

求食あまさる

漁あひる

艦板あひみ舟より陸へ架ける板

あ、四

挨拶あいさつ

愛想あいまう

反對あいこんど(轉倒)

後繼あとがま

乙地甲地あちち

持あひと(對)

遑あせる(躁)る

汗瘡あせり(暑疹)

尋常ありふれ(多種)

現實ありけん(歷然)

有平あるへい(冰糖)

青涕あそばな

胝あかぎれ



あ 四

倉皇あたら(焦燥)

爾來あれから

那個あれだけ

適れあつぱ(天晴)

註文あつちえ

四阿あつま(四柱亭)

概畧あらかた(梗概)又あらかし

齷齪あくせく

肖似あやか(感)る

曖昧あやふや

狎あま(嬌)える

淡鹽あまじほ

寅酉あけくれ(朝夕。旦暮)

浮雲あやな(危険)し

膩氣あやうけ

佔戲あてつて又あてくら

憑據あてこと——もないことを云ふ

臆説あてごと——何やらは先からいられる

淺陋あやうか(淺近)

呆あま(惘。瞠着)れる

あ 四五

斷念あきらめ(絶望。徹諦)

應あしら(遇)ふ人な

配あしら(添)ふ物な

蹙音あしおと

相生あひたひ(連理)

七首あひくし(短刀)

あ、五

愛嬌あひやう

振幼あやけ(憐)ない

退却あどじほ(逡巡)る

交綏あひやく(交退)兩軍——する

姤引あひやく(會合)男女——する

浴あび(灌。潑)せる

汗衫あせどり

苜蓿あんべら

被中爐あんにく(脚爐)

佩荷あひがたい

蒼白あやぞめる

明々地あからさま



あ 五六

掃垢(皮刷)

當然(至當)

不満足い

組胡座く

驕慣(姑息)す

五夜鐘

汗膩

●あ、六

惠心こゝ

上櫃

憧(浮岩。狂浮)れる

信(恃)にする

抵辭(諷詆。冲撞。暗指)

拂曉(未明。味爽)

淺陋し

易厭(易倦)し

没字漢(無學。白翳)

粉壘

嬌たるい——口をきへ

あ

●あ、二

骰子

姻家(生家)

棧門にーを下ろす

笊

醜態

●あ、三

處辨く

あ 二三

竹葉(碧友)

殘(餘。未了) 食ひ—飲み— 燃え—

螿す 虫が

献す 盃を

催(感)す 氣が

酒錢(酒料)



鰻(腐爛)る魚うなぎ

大畧たいりゃく

匆々(早々)きうきう

那裏ななか

更紗さらさ

洒脱しやだつ

挈くわける

雜魚寐(雜混寐)ざつこね

朗らうえる月つき

洩しやうえる氣き

鏘さうえる音ね

敏みんえる目め

却さく説せつ

竹籠たけかご物洗ものせんひ用ひようの

彪ひょう樂器がくの

褪せめる色いろ

冷れいめる湯ゆ

醒せいめる酒しゆ

覺かく(寤)める目め

肉波にくなみ(魚軒)

洵しゆん然ぜん

散さん々ざ

さノ四

傭じゆう妾せつ  
有繫ゆうけい(流石。道)

牙保あしほり

苛あつな(嘖)む

前兆ぜんせう

消流しょうりゅうる水みづ

快活くわいかつ(豁達)九——人にんだ

潺湲せんげん

逆膠ぎやくかく

月代つきやひ(月額)

酒醬しゆかう

諧謔かいぎやく

洒脱しやだつ(爽利)氣きが——する

全ぜん然ぜん——わからない

拂はら然ぜん——來きふ

曉きやうふ



さ 四五

象嵌さうがん

綾紗形あやさかた

垂髪あつがみ

下墨さびす(輕蕙。藐視)む

濺々あざあざ

呬ささや(耳語)く

潜々さめさめ(潜然)

● さノ五

淋柿あしき

寧親なやみ(歸寧)又さとびらさ

當面さしつめ(急刻)

吒さしや(差合。漸合)む

障碍さしあひ(支障)

凄さび(寂。淋。蕭。寞。寥)し

蓬さき(卑。劣)し

棧橋さんばし

酸慘さんげん(散々)——の目にあふ

暴露あらかた(露出)す

散亂放さんらんぱん

さ 五六七

然者さやうなら(請了)!

交刃さしやが(綳刺)ふ

異議さしつかえ

● さノ六

慧黠さといはなける

逆筋斗さかじんぼう

● さノ七

獻酬相次さいつおさえつ

さ

相對さしむかひ(對座)

刻下さしあたり(焦眉)

髣髴さしにたり

明々白地さつくばらん



き 二 三

●きノ二

杖子きょうし 玉突たまつきの

問き(訊。質)く人に物を

利きく口を

明きく目めが

●きノ三

性急きやう

端然きちん(整然)

煩慮きやう

稀代きだい(奇態)

奏切ききく薬が

怨言きざ(氣碍)

肌理きり(膚文)

氣質きあて

凜然きんと——した風采

確的きつと(必正。必然)——違ひない

豆渣まめくず(雪花菜)

熄きえる

機轉きてん

洒脫さいだつ(洒落)

氣催きざ(萌)す

聽客きやく(聽衆)

氣伸きせん(悠長)——ふ事をいつて居るよ

き 三 四

●きノ四

危き(殆)い

散鬱さんうつ(消憂。遣悶)

伶俐きやうり——なたちだ

織麗きやうり——に書く

俠きやう

癖語きやくご(套語。十八)——つて居る

体裁きやく(面目)——がわるい

秩序きやくじ物に——が無い

急須きやくす 茶器ちやくの

懸念けんねん(關心。介意)する

縹致ひょうち——が美しい



き 四

器量きりやう（一）一つで  
量りやうにでもなる

無上むじやう

懸念けんねん

俏きやう（瞿）り

嘘塔きよとん

悸き（慄然。愕然）と

決然けつぜん（斷乎）

氣屈きくつ（窮屈）

稠密ちゆうみつ

鬱々ふさふさ（快々）

煥々くわんくわん（的燿。燿燿。炫燿）

品位きんゐ

脚榻きゃくたつ

滑布かろふ

俏身きやうしん（纖弱）

不興ふきやう（不快）

到腕きやうたん

氣精きしやう（氣丈）

無賴漢むらいぢ（棍徒。光棍）

經飽きやうほう（栗の）

きノ五

弄口才りやうぐち（爲知。利た風）

擬寶珠ぎひやうしゆ（葱臺）

曲录きよくろく

誇大きやうだい

きノ六

謹嚴きんげん（方正）

切碎きせつ（寸斷）

ゆ

き 五 六

行水ぎやうすい（湯浴）

心懶しんらん

嚇着きやくちやうける

瞿々きやうきやう（盱々）又きよろしく

氣懊きあうし



ゆ 二三四

● ゆノ二

衿ゆき着物の

● ゆノ三

有餘ゆとり(寛裕)

浴室ゆす(混堂。澡堂)

暢然ゆらり

因縁ゆかり

明衣ゆかた(浴衣)

歪ゆが(典。苦縁)む

● ゆノ四

懈怠ゆだん(不注意)

茄ゆで(燥)る

撼ゆさ(搖)る

騙取ゆする

左手ゆんで(弓手。雄手)

懷ゆづ(慕)し

湯婆ゆたんぼ(暖足器)

綽然ゆつたり

搖々ゆらゆら(漂々)

融通ゆづり

● ゆノ五

周到ゆきと(浹洽。周徧)く

め

● めノ二

ゆ 四 五 め 二

夕榮ゆげ(夕映)

白雨ゆら(驟雨)

夕照ゆさけ(殘輝)

努々ゆめゆめ

新理ゆひたて——の器



め 二三四

目處(目途)

右手(馬手。雌手。妻手)

●めノ三

耗入(沈鬱)る 氣が——

鑒識——に叶ふた

内嬖(外妾)

艶飾(靚。冶。嬌飾)す

叨(妄)——にいはれぬ

鍍銀

●めノ四

不意——くらつた

眼色(目眚)

眇(眼渣)

目授(眇)——で知らず

屈げる

鯪(いわしの)

魚尾(毗尾。外眚)

め 四五六

莫大小

内眚

艶妝者

久潤——來なくなつた

堪驚——寒くふつた

●めノ五

滅相(堪驚)な

胸算

●めノ六

支離滅裂(鹵莽滅裂。漫滅)

目紛(目授。駸)

目禁(目授。眇)

着々(駸々)

嫩懦しい

奇怪

驚目しい

滅法界



み 二 三

み

●みノ二

態(状態。外見)

●みノ三

乾尸(木乃伊)

瞪(瞪。睜)る 目を――

微塵(毫頭)

外形(外貌)

外見

眉目(容貌)

服装

渾身(全身)

親内(姻戚)

御鬮(神籤)

家苞(土産)

刺縫

み 三 四

●みノ四

見事(美麗。壯觀)  
慘憺(悲惨)

眺望

見恍(見蓋。惚)れる

演路――をくふ

清漢

兔唇(歛唇)

水垢離

梳弄(破瓜)

點水(水注子)

瞠(凝視)る

澤々(潤々)

默許す

瞰(伏瞰)す

目送(見送)る

貶る



み四五

胸みぞ

身顫みふる(戰慄。惴慄)

巫子寄みこよせ(憑鬼術)

虚飾家みえほら

中止みあはす(仕事を一まつ)

蔑視みさげ(藐視)る

空子みくかき

●みノ五

漫理みだれやき刃やいば

身嗜みだしなみ(身愼)

身動みじふぎ(身轉)

身性みじやう

外觀みせかけ(虚勢。虚威)

懲戒みせしめ(懲惡)

不見手みざてん

看々みまじ(見在)

失敗みそつ(失策)ける

鼎足みづがなむ

耳語みみごり(諷刺)

銜みせかける

み五六し二

志

●しノ二

機會しほ(好機。奇貨)

偽爲しら(伴爲。不知)——なきめる

身窄みすぼら(窶)しい

●みノ六

隱々約々みんえんがくれ(隱見。顯晦)

身繕みつくろひ(身慰)

薄情みうくさい

泌しみ(浸)む  
柳條しりょう(縞)

誇示みせびら(誇耀)かす



し 二 三

風雨海がーだ

不漁魚がーだ

辞誼

汚點染汚

しノ三

瞥然睜り

有間霎時

老舗

纈纈縹染

四途亂亂次。踰踰

紙魚蠹魚

質ながらだ

同様一般。俳優ーて居る

芯蠟燭の！  
ラムプの！

後目流盼。斜視

憤焦。躁。憤悶る

捲黄丹姑煙

加之且

素養ーの出来て居る藝だ

し 三

生來生得 御意はよし

体裁

滑水む

醜酒む

躑庭訓

吹奏笛のー

清醒

識前兆。前表

弄殺燥殺す

舅阿翁 夫の父

外舅岳父 妻の父

舉止所作

忍草

鎬刃稜

脚色

洒落

詮様所爲

了終 ふ行てー

終極終局

繁吹く



し三四

瘞しやう

扱とく(扱とく)く

細帶しよまき(扱とく帶)

透とほる

遮壁しきり——かあつて行かれぬ

間斷しきり——なく雨ふる

四季施しきせ

首尾しゆび——よく行つた

密會しよび——の一夜

しノ四

繻子しよす(八絲)

濡しめ(濕しめ)る水で——

閉しめ(鎖しめ)る戸を——

占しめ(得しめ)た

縮羅しよら(縹しよら)

麻痺しびれ

噴嚏しんたい

糝粉しんこな

親身しんみ(肉親)

し四

素人しよじん(未熟者)

濁醪しよらう

踰々じゆうじゆう(盱々)

間しやうかん(且しやう。暫時。有間。霎時)

魚醬しよから

龍鐘しよしょう(悄然)

靜無しよな(乱次)い

閑雅しよやか(從容。叔。沈着)

涼爐しよりう

隱峻しよじゆん

後聲しよご(餘聲)

憤悶しよびん氣が——する

躑々じゆうじゆう——つめ寄る

乏しよな(貧)い

蹙しよめ(擡)る

肩懸しよけん

煖しよん(萎縮)る

強曳しよえいく

所詮しよせん

七顛八倒しちたへんぱたう



し 四

微甚（充分。顯多。健。苦。巨多）

自隨落（癩懦）

鼓舌

淫々

好色漢

沾然

緊乎

四合（緊密）

濃厚（色が）

多脂（味が）

執拗（心が）

冷興（坐る）

姑（夫の母）

多姑（宅母）妻の母

偷眼（偷盼）

失敗（失策）る

喋る

狎戯（れる）

瀟灑（れた）——家の造りだ

妙手（巧手）

饒多（充分）

繡珍（七絲）

瀟々

津濕

浸々（諄々。泌々。染々）

痺れる

杞憂（くだらない）——して居る

岑閑（森閑）

財產（家産）

柔靱

し 四

漏斗

飲仙（酒客）

掬る

邪慳

舐（唾。啜）る

端然と

頻繁（通ひ来る）

凝乎（見つめる）

強情（い）

火斗



し 四五

媽兒しんごう遊廓の――

妙齡女子しんざういきな――

神妙しんめう

● しノ五

連啓しんたいき

散私財さんしさいる

乱次らんじない

可憐しんれんしい

吝嗇家しんせつか

握保くわくほ(盛附)く

周諄しんみり

清々しんく(剪々)――こ寒くなる

沈々しんく(更々)――こ夜がふける

負揚帶しよりあげ

冒頭しよつばな(發端。劈頭)

始終しよつちう(始中終。時自久)

愁然しゆぜん(惘然)

得々しかりがは(揚々。得意)

喫めるしたく食事な

噦噦しやうくわい(呃)

挺然しやうぜん

酒蛙的しゅわてき(鐵面皮。厚顔)

狎戲じやらつく

三鞭酒しんべんしゅ

無職業家しむふたや

休じゆう(楚)ない

殊勝しゆしやう

萼菜しゆんさい

萎縮しみたれる

し 五

潦倒しんたうない

焦躁しゆそうい

執冗しやくじゆい

嬌しやうれる

失策しなしたり!

醜婦しうふ シウチンル ピウチフルより  
轉化したる語

捨二無二しやにむに

緩解しやんげん

那奴面しやつら(這面)

串戲じやうだん(戲語)



し 五六

豊下(豊頰)

世帯——を構へる

財産——のいゝ家だ

●しノ六

蹣跚踴躍

自業自得

如才ない

妖婦(毒婦。尤物)

竹箆返

爲不知(伴爲)い又しらばくれる

身上(此風)——だ

斟酌

二毛

遮欄

嗶聲

嫵々

虚誇(修飾)い

狎戯

辛張棒

春慶髻

盡未來際

し 六七ひ二

尋(母)深さ幾

他的——の氣も知らないで

直——と寄り添ふ  
——はしりに走る

●ひノ二

●しノ七

嚴格らしい

歎歎(吞吐。效逆)ける

ひ

禰(襪積)

浮帖(招帖)——をぶら下げる

貨牌——をまいて豪遊する



ひ 二 三

闘ひく 花牌なを

蠢びく 一ともせぬ

輸ひけ (人後) 一は取らぬ

髭ひげ 鼻下の

鬚ひげ 頤の

髯ひげ 頤の

● ひノ三

愛顧ひいき (最負。嗜観)

尾籠びろう (失禮。賤陋)

披露ひろう

披風ひふ 一を着る

龜裂ひび 壁に 一がいつた

璽ひび 玉 一がある

胼ひび 一が切れた

峭然ひび 一とした目骨

傍腹ひばら 一を蹴る

皮肉ひにく 一な事をいふ

酷ひび (太。甚。微。過) 〽

翻然ひらり

岳ひのめ 一も拜まぬ

火伸ひのし (鉛鉗)

日來ひこら (属日。向日)

犇ひし と

鹿角菜ひじき

稠座ひどなか  
群衆ひどごみ  
一層ひとしほ (一入。一倍)

ひ 三 四

畏縮ひる 〽

日子ひから 一がい

僻見ひがみ (偏僻。頗僻)

歪ひづ 〽

日向ひなた (日南)

日濟ひなし 一の金

● ひノ四

天鷲絨びろら

獨身ひとりみ (犖獨。單丁)

温雅ひとがら



ひ 四

鱒々ひらひら 魚がーはれる  
 辛々ひらひら (苛々)  
 鱗發ひらひら (拆裂)れる  
 角睐眼ひらひら  
 僻耳ひらひら  
 趨然とー飛ぶ  
 偶然とー出あふ  
 萬一ひらひら (尙然。蓋)ーしたら  
 異なひらひら  
 餓怠ひらひら (餒。肚飢。空腹)ー又ひらひら

混々ひたひた 水がーこ  
 只管ひたひた (專念。懇切)  
 平伏ひたひた (俯伏)す  
 揚つひたひた 色がー  
 聞寂ひたひた  
 拘攣ひたひた  
 固着ひたひた  
 吃驚ひたひた  
 把玩ひたひた (撚。捻)る  
 陰忍ひたひた

ひ 四五

● ひノ五

閃々ひらひら 稲妻が  
 霏々ひらひら (續粉)雨。雪などが  
 紛披ひらひら (婆娑)着物が  
 翻翻ひらひら 旌旗が  
 潤々ひらひら 波浪が  
 掲々ひらひら 刀刃が  
 颼々ひらひら 風がー吹く  
 惴々ひらひら (悚々。憂懼)  
 素見ひらひら 店頭で品物を

詼ひらひら (冷弄。冷罵)す人を  
 碾茶ひらひら  
 抽斗ひらひら (抽篋)  
 天窗ひらひら  
 黎明ひらひら 夜のー  
 懶懦婦ひらひら  
 米糊ひらひら  
 鬨ひらひら (乱響)く



ひ 五六

一應ひとへ(一遍)

決然ひつぜん

一時ひととき

散付ひりつける 魚いし卵たまごを

趨然ひよつくり——飛び出る

突然ひよつくり(偶然)——出合ふ

不如意ひたりき

飲仙ひたりき(酒客)

引奪取ひったく(掠奪)る

●ひノ六

拗挫ひやくさく

引攪ひつぎふ

不絶ひつぎ(無間斷。楯比)

匾平ひら

婆娑ひら(紛披)

蒲柳質ひやうしん

誇示ひけち(炫。誇輝)かす

退去ひきざりふ 故郷ふるさとを

灑々濡びしよぬれ(全濡)

ひ 六七九も二

單丁ひとぢやう(犖獨)

人身牲ひとみなり

肱鉄砲ひでつぱう(拒絶)

●ひノ七

攪旋ひつかまはす

●ひノ九

一丘ひとつあなの貉むじな

も

●もノ二

伶仃ひやうてい

寂寞閑ひつせいかん

負暄ひなたぼっこ(偃曝)

把玩ひたすらはす



も 二三

黏糖

傅婢

銛(魚粽)

尙一一度

既(已) 一見えぬ

揉一柔々に

鑽一鑽で

● もノ三

醪(酷)

既(業已)

焦(躁) 一氣を

拗(挽) 一

鼻一鼻を

樅

紉

紅絹(絳帛)

擬(宛似)

鋏(狼牙棒)

も 三四

兩裼(兩袒)

● もノ四

迎(聘) 一 嫁の婿なごを 又 藝人を他の座敷より

貫一人から物を

没計(僥倖。意外)

葛藤(紛議) 人事の

纏(纏) 糸の 一 髪の 一

悶躁(腕) 一

脱

振る

斥候

無鑑札

潜る

木槿

木理

舫

被厚遇(被款待) 一

文派(紋羽)

本色(特性。特質。特色。生得)



も 四

靠(凭)れる 欄干よ

停滞(食滞)れる むねが

至當(道理) 其通りーだ

最 ー多  
ー少

尤 おれはいやだ  
ー條件附なら承諾しやう

設る 屋上に避雷針をー

儲(用意)る ーいつでも米だけは

贏(臆)る ーそれを賣つて

失費(散財。費耗)

語氣

素封家(富豪)

好奇

較計(企畫。圖計)

木犀

鬱々(槽々)

没義道

耳前毛

忸怩(搓擲。含羞。踟躕。逡巡)

燃片(餘燼。餘焚)

桃尻 ーに座わる

筋斗

胡慮

健忘(遺忘)

土龍

捫着(紛議)

煩悶(蒹藎)

怪精

● もノ五

可悶しい

勃興る 騒動が

勃起る 倒れて居たものが

扛げる

陪涙

● もノ六

勿体ない

寂寥(悽愴)こし

も 四五六



せ 二 三

せ

●せノ二

身材(身長)―高い

競(糶)る 價を―

精縷

●せノ三

青磁―皿

臺詞

嘯讀む又せびる

所爲(故)その―だらう

堰く水を―

須(應。必。適)―來たまへ又せび

刹那

促(急付)く

節季―師走

切(迫)て

撈る

焦躁

性急

切な(難禁。難堪)

膠灰

舟子(船頭。榜人。黄頭郎)

穿鑿

せ 三 四

精々(孜々)

僕人

女術(忘入。國戸)

●せノ四

蒸籠

贅澤(奢侈)

奄々―息をする

狹門際(迫戸際)

迫出(押出)す

拒絶れる



せ 五 六 す 二

●せノ五

忙忽せはしな(栖々。促迫。倥偬)い  
狭邪子せけんみす

●せノ六

冷笑せうりょう(嘲笑)ふ

す

●すノ二

驚破すは—敵が襲來した  
拘摸すり

梳すく髪を  
結すく網を

●すノ三

粗漏ずろ(緩怠)

徒膚すはだ(生膚)

窄すぼ(窄隘。褊小)む

亡すべ(滑。脱。失脚。濼汰)る

退すべる座を

失言すげんる口が

懶懦婦うだうだ

す 二 三

萬分せめて一の

前表せんひょう何の—だらう

織蘿せんら葡萄ばん

好す(嗜)くきらぶの反對

漉すく紙を

耨すく田を

赤手すて(素手。徒手。空拳)

鰻すま

艘すべ(艘)る舟が障碍に觸れて  
前進せざる貌

縫する

透すかす外うから

睥すか偷視うす離れたるものを

賺すかす人の氣を

直すちと—通る



す三四

拗強(拗振)る

娉婷(織削)

選(擇)る

竦(竦縮。窘)む

●すノ四

敏捷い

滑然

通心る 大根に――

虚さず――切込む

寸烈(寸断)

凄い

非常(非凡。拔群。白眉)

數奇舎 茶寮をいふ

珠寄屋――着物の

悉皆(全然)――無くした

釋然(脱然)それで――わかった

轟然――突立つ

滔々

水飽(水圍)

索性

喫殻 煙草の――

清爽 又すがく

悠憑る おだて――

駸々――行て了ふ

歎歎

銅鈴眼

清穩――眠る

無情い

蘇絨

惘然(蕭々。悄然)

炭斗(烏府)

●すノ五

堪感しい

摘發(訃。發)く

粹興(醉興)

す四五



俗語と難辭畢



俗語と難辭畢

附錄



假字づかひ

い

く お か  
い い い

ぬ

る  
る

●い●に●紛●る●も●の  
井 亥

●る●若●く●は●ひ●に●紛●る●も●の  
悔 老 權

る●る●  
や

次●の●十●語

次●の●五●語  
む●く●い●  
さ●い●づ●ち  
報  
終●機

禮 居  
くもぬ  
まもぬ







わ あわ。 わ。 いを。 魚。 いを。 十。 青。 竿。 水豚。 功勳。 芭蕉。 操。 みを。 ばせを。 いさを。 みを。 さを。 あを。 とを。

●はに紛るゝもの  
泡

次の十五語 他は皆はなり  
しわ。 皺

●はに紛るゝもの  
次の十六語 他は皆はなり

かをる。 薫。 やをら。 徐々。 まをす。 申。 しをり。 梨。 しをる。 萎。 しをん。 紫苑。 たをやか。 嬋娟たをやめ。 こをばい。 紅梅。

を。 甥。 をひ。 蛇。 をろち。 をはる。 終。 をどり。 媒鳥。 をどる。 踊。 をかし。 可笑。 をかす。 犯。 をがむ。 拜。 をさむ。 驕。 をめく。 叫。 をみ。 女をんな。

治(納) 女をんな

をしへ。 教。 をしむ。 愛(惜)。 をしね。 晩稻。 をしき。 析敷。 をし。 勇状。 をとつひ。 一昨日をさし(昨年)。 をのく。 戦慄。 をこたる。 怠(愈)。 をさく。 多くはの意。 をさなし。 幼稚。 をしかは。 韋。 をみなへし。 女郎花。



ある ● 名 ● 名 ● 名 ●  
 え ● 文 ● 点 ●  
 はえ ● ぬえ ● ふえ ● ひえ ● さえ ●

え ● 若くはへに紛るゝもの 次の九語  
 鮪 ● 鷓 ● 笛 ● 稗 ● 榮螺 ●  
 餌 ● 繪 ● 彫 ●  
 若くはへに紛るゝもの 次の二十一語  
 甲 ● 蕪 ● 蘗 ● 鶉 ●  
 甲 ● 蘗 ● 蘗 ● 鶉 ●  
 甲 ● 蘗 ● 蘗 ● 鶉 ●

あわつ ● さわぐ ● ゆわう ● すわる ● たわやか ● さわやか ●  
 周章 ● 騷 ● 硫黄 ● 坐 ● 嬋娟 ● 爽 ●  
 腹 ● 理 ● 諺 ● 聲作 ●

ひわ ● いわ ● かわ ● よわ ● たわ ● うわ ● くわ ● のわ ● くるわ ● くつわ ● しわ ●

ひわ ● いわ ● かわ ● よわ ● たわ ● うわ ● くわ ● のわ ● くるわ ● くつわ ● しわ ●  
 鷓 ● 鯛 ● 乾 ● 弱 ● 撓 ● 植 ● 慈姑 ●  
 野分 ● 廓 ● 轡 ● 作業 ●  
 あわつ ● さわぐ ● ゆわう ● すわる ● たわやか ● さわやか ●  
 周章 ● 騷 ● 硫黄 ● 坐 ● 嬋娟 ● 爽 ●  
 腹 ● 理 ● 諺 ● 聲作 ●

あわつ ● さわぐ ● ゆわう ● すわる ● たわやか ● さわやか ●  
 周章 ● 騷 ● 硫黄 ● 坐 ● 嬋娟 ● 爽 ●  
 腹 ● 理 ● 諺 ● 聲作 ●



つじ づじ くらじ くらじ さじ さじ きじ はじく はじめ まじる あじろ あじか さじき

辻 蛆 籤 匙 雉 彈 始 交(雜) 網代 簀 棧敷

にじる ほじ、 なじる むじな くじる くじく やじり し、む し、み ひじり ひじき

蹂 脯 詰 貉 挾 挫 簇 縮 蜺 聖 鹿尾菜

ゑじ ゑばし ゑつく ゑぐし ゑんじゆ ちゑ づゑ うゑ うゑ

烏帽子 吐 醜 槐 智恵 杖 植 飢

はじ 打消の時 櫛

●次の四十三語 他は皆ぢなり

こゑ ゆゑ すゑ すゑ すゑ ともゑ つくゑ

聲 故 末(すゑ) 坐 陶 巴 机

にじ 虹 刀自老女の通



なまじひ 愍  
 まなじり 毗  
 まじなひ 禁厭  
 みじかし 短  
 いちじるし 著明  
 かたじけなし 辱  
 いみじ 甚  
 つしじ 躑躅  
 つむじ 鱧

す  
 ●次の十六語 他は皆づなり  
 打消の時  
 はす

つむじ 廻毛  
 むらじ 連 姓なり  
 うなじ 頂  
 おなじ 同  
 あるじ 主人  
 あるじ 饗應  
 ひつじ 羊  
 すさまじ 荒涼

筈

かす 數  
 くす 葛  
 きす 疵  
 もす 鴟  
 すい 錫  
 すい 鈴すいむし  
 すい 鼠  
 ねすみ

### 音便の假字

●きがいとなる例

いだいて 抱(いだきて)  
 かいて 書(かきて)

す  
ら

すいろう 不覺(漫)  
 すいき 鱸  
 すいめ 雀  
 すいし 涼  
 みいす 蚯蚓  
 たいすむ 千  
 なすらふ 準

ついたち 朔日(つきたち)  
 ついたて 衝立(つきたて)



い  
う

さいはひ 幸(さいきはひ)

●しがいとなる例

ながい 長(ながし)

あつい 熱(あつし)

さむい 寒(さむし)

みじかい 短(みじかし)

●はがうとなる例

はうき 箒(はうき)

●ほがうとなる例

なうし 直衣(なはし)

●へがうとなる例

まうちきみ 卿(まへつ)

さいたま 埼玉(さいたま)

あぐい 酸(あぐし)

わたくい 私(わたくし)

くい 串(くし)

もてない 響應(もてなし)

かうはり 蝙蝠(かははり)

つかうまつる 仕(つかうまつる)

う

●りがうとなる例

とうで 取出(とりで)

●をがうとなる例

まうす 申(まをす)

●かがうとなる例

かうぶり 冠(かぶり)

●ひがうとなる例

かうじ 柑子(かむし)

たうげ 峠(たむげ)

●ゐがうとなる例

まうで 参出(まゐて)

●くがうとなる例

ひらが 日向(ひむか)



う

こまうと 高麗人(こま)

せうと 兄人(せびと)

う

かうし 隔子(かくし)  
やうやう 漸(やうやく)

ひやうし 拍子(ひやくし)

たうばり 賜(たまはり)  
●まがうとなる例

●ふがうとなる例

はうし 法師(はふし)

さうらふ 候(とらふ)

●みがうとなる例

かうべ 神戸(かみへ)

かうがい 髪搔(かみかき)

こうぢ 小路(こみち)

かうつけ 上野(かみつけ)

てうづ 手水(てみづ)

●ひがうとなる例

いもうと 妹人(いもひと)

くらうと 藏人(くらひと)





誤り易き字音

忌諱<sup>キキ</sup> 覬覦<sup>キキ</sup> 價值<sup>カチ</sup> 避暑<sup>ヒシヨ</sup> 妥當<sup>ダウ</sup> 論號<sup>シガウ</sup> 踏仆<sup>フクフ</sup> 櫛比<sup>シツビ</sup> 祝詞<sup>シウシ</sup> 泛駕<sup>ハウガ</sup>

忌諱<sup>キキ</sup> 覬覦<sup>キキ</sup> 價值<sup>カチ</sup> 避暑<sup>ヒシヨ</sup> 妥當<sup>ダウ</sup> 論號<sup>シガウ</sup> 踏仆<sup>フクフ</sup> 櫛比<sup>シツビ</sup> 祝詞<sup>シウシ</sup> 泛駕<sup>ハウガ</sup>

誤り易き字音

二三四

憎惡<sup>ゾウ</sup> 軒輕<sup>ケンチ</sup> 破綻<sup>ハタン</sup> 義捐<sup>ギエン</sup> 汚穢<sup>ヲマツ</sup> 雨雹<sup>ウハク</sup> 斗杓<sup>トヘウ</sup> 參差<sup>シンシ</sup> 嗚咽<sup>ヲエツ</sup> 耗損<sup>カウソン</sup>

憎惡<sup>ゾウ</sup> 軒輕<sup>ケンチ</sup> 破綻<sup>ハタン</sup> 義捐<sup>ギエン</sup> 汚穢<sup>ヲマツ</sup> 雨雹<sup>ウハク</sup> 斗杓<sup>トヘウ</sup> 參差<sup>シンシ</sup> 嗚咽<sup>ヲエツ</sup> 耗損<sup>カウソン</sup>

誤り易き字音



睡●毗●ア●イ●サイ●  
 悖●戾●ハイ●レイ●  
 耽●々●タン●タン●  
 副●將●フ●シ●ヤ●ウ●  
 副字かなふと訓  
 む時は音フク  
 閔●檣●ゲ●キ●シ●ヨ●ウ●  
 從●容●シ●ヨ●ウ●ヨ●ウ●

快●哉●ク●ワ●イ●サイ●  
 龍●準●リ●ヨ●ウ●セ●ツ●  
 膏●盲●カ●ウ●ク●ワ●ウ●  
 計●畫●ケ●イ●ク●ワ●ク●  
 時はみまむ  
 擴●張●ク●ワ●ク●チ●ヤ●ウ●  
 輸●出●輸●入●シ●ユ●ス●井●シ●ユ●ニ●ウ●

幹●旋●ア●ツ●セ●ン●  
 犇●猛●ダ●ウ●モ●ウ●  
 撮●影●サ●ツ●エ●イ●  
 貪●婪●タン●ラン●  
 紊●乱●ブ●ン●ラン●  
 絢●爛●ケ●ン●ラン●  
 暇●然●シ●ン●ゼ●ン●  
 借●問●シ●ヤ●モ●ン●  
 譌●傳●ク●ワ●デ●ン●  
 倜●儻●テ●キ●タ●ウ●  
 鑄●造●シ●ユ●ザ●ウ●  
 偷●盜●ト●ウ●タ●ウ●

白●皙●ハ●ク●セ●キ●  
 巾●櫛●キ●ン●セ●キ●  
 敵●愾●テ●キ●カ●イ●  
 提●撕●テ●イ●セ●イ●  
 容●隊●ヨ●ウ●カ●イ●  
 駐●劄●チ●ウ●サ●ツ●  
 剛●愎●ガ●ウ●ヒ●ツ●  
 老●嫗●ラ●ウ●ア●ウ●  
 貯●蓄●チ●ヨ●タ●ウ●  
 饕●餮●タ●ウ●テ●ツ●  
 切●怛●タ●ウ●タ●ツ●  
 內●帑●ダイ●タ●ウ●

幹と幹と誤る

皙と皙と誤る